

▲遺影の前で語らう人々（職員より）

・遺影の前でボロボロと泣き出す子、とりとめもなく涙が出るからですと……小さかった時の思い出が思い出されて、涙……だけ、また来ますと。

・おじちゃんには大変お世話になりました。忘れたことはないです。

・気の強い娘2人を泣いてはなぐさめてくれたり、本当に大きくしてもらった。月に1回ぐらいおじちゃんに献花させて下さい……

・いつももってきて園の中をぐるりと先生達とお話ししたりと……

・小学生の卒園児が帰りに立ち寄り、おじちゃんの遺影の前で手をあわせていくこと数人。

・泣いている子をあやし、あやし終わると事務所に。いつも園長先生がすわっている場所へ。「わかんないんだよなあ〜」おじちゃんの方がコロコロの保育士だ!!と心の中にある子ども気持ちをキャッチするのが早く、いつも感謝でした。「四分一さん なあ〜」と時々はぐつとくるときもあつたでしょう。

・Mはいつも朝になると花をつんでおじちゃんにあげるの!!といつもありがたいの気持ちでいるんですと話しています。Mの心の中では、おじちゃんが生きていますねーと

・亡くなる前の数カ月前4月頃、コスモスを植えかえていたりしている時に、サツマイモの苗も植えたりおばちゃんとその時に何回も「おじちゃんやめて下さいよ」「お医者さんへ早く〜」すると「大丈夫、動いている方がいいんだ。腸がこうして活発になつてなあ〜で

もお腹はすかないんだよなあ〜」と。

・亡くなる一ヶ月前、朝出勤し事務所へ、「四分一さんなあ〜。水筒に水を入れて持ってくるけど、水一口入れただけでも、コロコロお腹になるんだ〜まったくなあ〜。迷惑かけるなあ〜」と……何回も言うていて、そんなことないヨ!!お互い様、早く元気になるように……  
・いつも思っていました。もしや……??

・網戸が壊れればすぐなおして下さったり、日曜大工はすべておじちゃん。本当に感謝です。あれもこれも嫌な顔一つせず頼めば次の日には出来上がったたり、修理して下さったり小羊にとって大切な人を亡くして残念でなりません。

・個人的かな、家庭のこと職場のことなどお話ししてくれましたね。でなあ……でなあ……でなあ……胸がつかまることもありました。

・今現在は、玄関入ったところにおじちゃんの遺影があり、いつも見守っていて下さいねと、職員の気持ち。子ども達、職員、保護者、夜の見まわりまでお願いし、「帰ります」どんな時にも笑顔でむかえ「おつかれさん」と言われている様です。私達の心の中にも生きていますね。ありがとうございます。

・おじちゃんと四分一先生の会話、おじちゃんの鳥取弁が私たちには理解されなくて、四分一先生とは通じ合っていたので、いつもすいいなあ〜と思っていました。

・おじちゃんが廊下を歩くスリッパの音……今でも思い出します。

・おじちゃんが子どもを見る時のやさしい目。子どもが大好きでかわいくて仕方がない様子が伝わって来ました。